

国際共同研究シリーズ 10

防衛研究所－オーストラリア国立大学(ANU)共同研究

ハブ・アンド・スポーク を超えて

日豪安全保障協力

ウィリアム・タウ／吉崎知典 編

防衛省防衛研究所

平成 26 年 3 月

目次

まえがき	i
ウィリアム・タウ／吉崎知典	
序論	1
ウィリアム・タウ／吉崎知典	
第1部 転換期の地域安全保障	
第1章 新たな地域の脅威と展望——オーストラリアの視点	11
ジョン・リー	
第2章 中国・北朝鮮・ナショナリズム・地域秩序	27
神谷万丈	
第2部 海洋安全保障	
第3章 海洋安全保障と能力構築——豪日間の次元	39
ユアン・グレアム	
第4章 中国の海洋戦略と海上法執行機関——発展戦略から強国戦略へ	55
増田雅之	
第3部 日豪防衛協力	
第5章 豪日防衛協力の将来の道筋——オーストラリアの視点	73
アンドリュー・デイビス	
第6章 アジア太平洋における日豪防衛協力	85
石原雄介	
ワークショップ参加者リスト	109
付録——日豪安全保障協力関連政策文書	111

まえがき

オーストラリア国立大学（ANU）と防衛省防衛研究所は、日豪の安全保障関係に関する共同研究を2年にわたって実施してきた。共同研究は日豪政府の防衛当局の支援を受けて2012年春に始まり、2012年12月（東京）と2013年6月（キャンベラ）にワークショップを開催した。本報告書は、それらの成果をとりまとめたものである。

ANUと防衛研究所の研究者は、アジア太平洋地域の平和と安定、そして望ましい地域の発展を実現していくにあたって日豪それぞれが抱える安全保障上の現在の課題、将来想定される課題を議論した。実際、日豪は多くの共通点を有しており、両国の協力には大きな潜在的可能性がある。ダイナミックに変化するアジア太平洋地域における安全保障をどのように構築していくか、両国はより広範に、より緊密に協力できるだろう。このような観点から、今回の共同研究のように、両国間の意見や見方の交換は非常に重要なことといえる。

本共同研究は他研究機関からも参加を得て実施された。マルコム・クック（シンガポール東南アジア研究所）、アンドリュー・デイビス（豪州戦略政策研究所）、福岡輝彦（防衛大学校）、ユアン・グレアム（ラジャラトナム国際研究大学院）、神谷万丈（防衛大学校）、ジョン・リー（シドニー大学）、アンドリュー・オニール（グリフィス大学）、土屋大洋（慶応大学）の各氏はワークショップの討議に貢献してくださった。うち4名には本報告書の執筆者にもなっていた。政府当局、特に在京豪州大使館及び在豪州日本国大使館にもご支援いただいた。ブルース・ミラー駐日大使、クリス・ピラー氏、ジョン・リー氏、森美樹夫公使、弓削州司参事官、伊藤拓也防衛駐在官には格別の感謝を捧げたい。また、2回のワークショップを成功裡に終えることができたのも、双方のスタッフの尽力によるところが大きい。ANUのブレンダン・テイラー戦略防衛研究センター長、デイビッド・エンヴァル氏、ディアン・ドラモンド女史、カナ・モイ女史、防衛研究所の末富理栄企画調整課長、檜山広次3佐に、この機会をかりてお礼を申し上げたい。

ii ハブ・アンド・スポークを超えて

我々にとって本報告書の刊行は大きな喜びである。アジア太平洋地域の安全保障をめぐる政治を理解することは、それ自体重要であるし、グローバルな文脈からみても重要である。編者及び著者としては、本報告書が日豪それぞれの国内におけるこの重要な二国間安全保障関係に対する理解が深まることを期待している。両国が手を携えれば、各自でできることよりも多くを成し遂げられるはずである。

オーストラリア国立大学国際関係学部長 ウィリアム・タウ

防衛省防衛研究所理論研究部長 吉崎知典